

左・地下1階のレストラン「HALE 海's (ハレカイズ)」は、オリジナリティあふれる料理を提供。「何を食べてもおいしい」と、丸岡さん。広々としたテラス席もある。

中央・家族の憩いの場であるリビングダイニングは、一面が窓で開放的。ご主人が好きな黄色など、鮮やかな色調のアートや小物を飾って明るい雰囲気仕上げています。

右・敷地内に里山を再現した「こげらの庭」も丸岡さんは気に入っている。神谷町駅方面に出る時には少し遠回りでもこの庭を通り、木々の緑や四季折々の花を眺めていくという。



ARK HILLS SENGOKUYAMA RESIDENCE

アークヒルズ
仙石山森タワー

所在地：東京都港区六本木1丁目9-18 / アクセス：六本木一丁目駅 徒歩4分 [地下鉄南北線]、神谷町駅 徒歩6分 [地下鉄日比谷線] / サービス：フロントサービス (バイリンガル対応)、ドアマンサービス / 備考：駐車場あり (空き状況により利用可)、ペット可 (飼育できるペットに制限あり)、棟内の「ヒルズスパ」ほか都内に5箇所ある「ヒルズスパ」を利用可、ビューラウンジ、ゲストルームあり (有料)

お問い合わせ：森ビル株式会社 住宅事業部
電話：0120-52-4032 www.moriliving.com

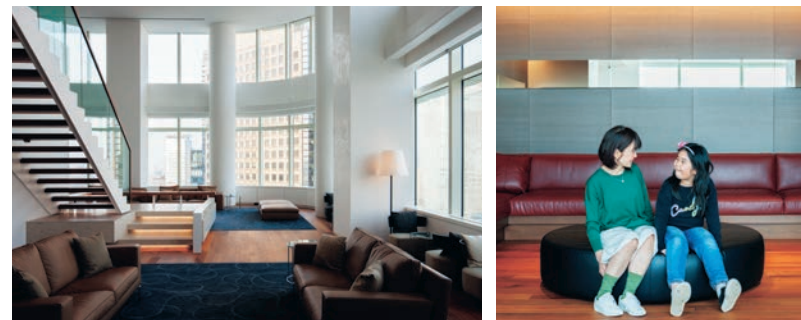
20 アークヒルズ 仙石山森タワー

MORI LIVINGの家の鍵

都心の“立体緑園都市”で
子どもの成長を見守る

photo_ Satoshi Nagare
text_ Seishi Isozaki
edit_ RCKT/Rocket Company*

奥にキッチンも備える25階のビューラウンジで娘さんと談笑。ラウンジの利用は事前予約が必要。



民間による日本初の大規模再開発事業として1986年に完成し、都心の計画的な“街づくり”をリードしてきた『アークヒルズ』は、「職住近接」「文化の発信」「自然との共生」などを具現化する「ヒルズ」の原点として、今もゆるぎない存在感を放つ。オフィス、住宅、商業施設、コンサートホール、放送局などの芸術・文化施設を充実させただけでなく、緑豊かな環境も整備。新たな都会の生態系を育ててきた。完成から四半世紀の時を経て、成熟期を迎えたアークヒルズの拡充と、周辺エリアのさらなる発展を牽引する役割を担い、2012年8月に竣工したのが『アークヒルズ 仙石山森タワー』だ。レジデンス機能と商業・オフィス機能が高次に複合したこのタワーは、土地の合理的かつ健全な高度利用を実現。足下に広がる敷地には生物多様性に配慮した緑地を整備するなど、地域緑化にも貢献している。

「都会の中の都会という立地にも関わらず、自然を身近に感じることができるこの環境を気に入っています。静かでとても快適ですよ」。そう話すのは、2014年からタワーの3〜24階に位置する『アークヒルズ仙石山レジデンス』で暮らす丸岡紀子さん。

引っ越しに際し、物件探しはご主人に任せきりにしていたが、ここは一目で気に入ったという。「初めて見た時、きれいなビルだなあ、と思いました。周辺に緑が多かったこと、それに私は車の運転をしないので、六本木一丁目と神谷町の2駅を利用できることも大きなメリットと感じました」。

さらに心惹かれたのが、隣接するアークヒルズの一画にあるサントリーホール存在だ。クラシック音楽が大好きだという丸岡さんは、「自宅からコンサートホールまで歩いて5分で行けるんです。なんて贅沢なんだろうと思いました」と、笑顔を見せる。日常生活の延長線上に、文化・芸術と触れ合う機会が持てる。それもまた、このレジデンスに住む利点というわけだ。

一般的な住宅街ではないせいか、友人たちから「住みにくくない?」と、聞かれることもあるそうだが、「まったくそんなことはありません」と丸岡さんは否定する。「むしろ生活しやすいと思います。最近、品揃えに個性があるスーパーマーケットが増えたおかげで、買い物が便利になりましたし、その日の気分を使い分けることができているので楽しいです」。

住み始めてから気づいたことだが、『アークヒルズ 仙石山森タワー』は自分たちの住まいというだけでなく、ひとつの“街”のようでもあり、丸岡さんは続ける。「この建物の中に、私たちの生活に必要なものが揃っているんです。買い物や食事のほか、『ヒルズスパ』のジムで運動もできるし、眺望の良い25階のビューラウンジでパーティを開くこともできる。その上、子供が習い事として通えるスイミングスクールや書道教室も棟内にあり、「送り迎えをしなくていいので助かります。特にプールは、水着の上にかつ羽織るだけで行き来できるのが楽だと、娘も喜んでます。冬場も風邪をひく心配はほとんどありません。丸岡さん夫妻も、それぞれ毎日のように『ヒルズスパ』に通っているそうだが、疲れている時には運動はせず、サウナやスパだけ利用することもある。そんな使い方ができるのも、自宅と同じ棟内であればこそだ。

娘さんが9歳になり、現在の住居が手狭になってきたために、丸岡さん一家は近々、引っ越しをすることにした。新居ももちろん、この棟内にある。「今は別の場所での生活は考えられない」そうだ。

上・リビングダイニングと引き戸で仕切ることができる約6.5畳のゲストルームを、現在は子供部屋として活用。ぬいぐるみやおもちゃはボックスに入れて、スッキリと収納している。下・調理台が広くて使い勝手がいいキッチンには約4畳。冷蔵庫・オーブン・食器洗浄機などの電化製品があらかじめ備わっている。普段は入口の引き戸を開けただけで使うことが多い。

